

平成30年度研究テーマ(案)

確かな学力を土台とした「学びに向かう力」の育成

平成29年度 大津町小中学校共通実践事項

- (1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示
- (3)家庭学習の習慣化 (4)県学力調査に向けた課題克服プリントの計画的活用

4月23日(月)

徳洲

子どもと創る聴形・話形(命名:米村先生)

以前、米村先生からの紹介があった聴形・話形の掲示物についてです。この聴形・話形は1年間をかけてつくっていきます。以下、昨年度の徳洲の個人論文から抜粋したものです。

(3) 授業言葉の蓄積

児童の表現力を向上させるためには、児童が使う言葉の指導も不可欠である。しかし、「こういうときは『例えば』って言うといいんだよ。」と教師が一方的に指導しても、なかなか定着には結びつきにくい。

児童は日常的にいろいろな言葉に触れ、使っている。「たとえば」、「もし」など、説明する際に大切になる言葉をもっている。それを児童が授業の中でふとした時に話した時に教師がそれに焦点化させる。以下に例となる授業の具体的な場面を記す。(C:児童 T:教師)

C1:例えば、こんな図をかくと…。

T:ちょっと待って。今のお話、最初からもう一回お願い。

C1:例えば…。

T:ストップ。今、〇〇さんは何て言ったかみんな分かった。

C:「例えば」って言った。

T:そう。よく聞いてたね。「例えば」ってどんな言葉なの。

C2:別の分かりやすい話をする時に使う。

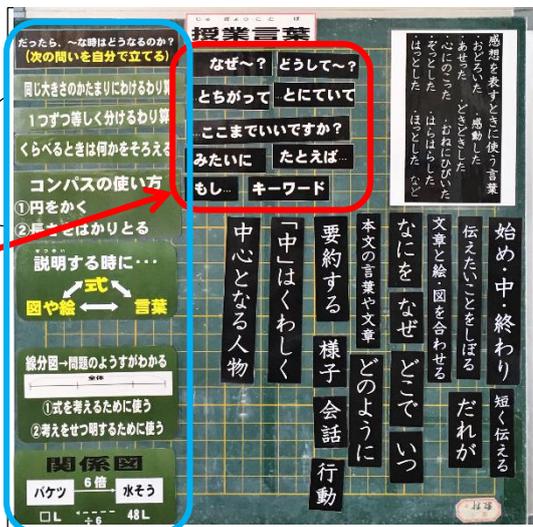
T:そうだね。説明する時に使うと、相手に分かりやすいね。〇〇くん聞く相手のことを考えた言葉を使うね。

その後、それを下の資料のように、カードにして教室に置いておく。カードの言葉を使って説明した児童はまた評価する。その繰り返して、大切な言葉が少しずつ学級全体に浸透し、言葉の数も増えていった。



主に算数で使う授業言葉

算数で獲得してきた知識・技能



資料6 授業言葉(教室設営)

児童が使った言葉を教師が焦点化させ、どんな時に使うものかを確認させます。教師から指導することもあります。あくまで「児童が使った言葉」を蓄積していくようにしていました。

今年度は「あ～！！(なっとく)」や「えっ！？(ぎもん)」などの感嘆詞を早めに引き出していこうと取り組んでいます。

できたカードは、誰かがその言葉を使って話したときに、黒板に貼っていきます。

ちなみに右の写真は2の1の内田先生が取り組まれているものです。(先週、夜にこそっと撮りました(笑) 許可無くごめんね◎

こんな風にカテゴリー別にするのも、分かりやすいと思います。

「授業言葉ができたから、使いなさい」ではなく、「みんながだんだん使えるようになるといいね」くらいのスタンスでいいかな、と思います。

児童の反応等をマニュアルでがちがちに固めると、自然な言葉・反応は出にくいので、日頃からいろんな反応を認め、ほめてあげるように取り組んでいます・・・難しくてうまくいかないことが多いですが。

